

埼玉県内における図書館員数の実態調査報告 —生涯にわたるキャリア形成を視野に—

石川敬史*¹ 青木玲子*² 市村櫻子*³ 黒澤あずさ*⁴ 櫻田今日子*⁵

<概要>近年、図書館の業務委託化や指定管理者制度の導入を背景に、任期の定めがある非正規の図書館員が急増している。このため、図書館員の生涯にわたるキャリアを描けない状況にある。本研究では、図書館員の生涯にわたるキャリア形成の分析を視野に入れ、図書館員の実数に関する調査を実施した。具体的には埼玉県内の図書館を対象に、雇用形態別の図書館員の男女比、年齢構成、役職者などを数量的に調査し、館種ごとに特徴を分析した。

<キーワード>生涯学習、専門教育、女性図書館員、キャリア形成

1. はじめに

近年、図書館を設置している自治体や学校法人等が経営改革を進め、指定管理者の導入などの図書館業務の民間委託化を背景に、任期のある非正規図書館員が急増している。このため、図書館員が過去の経験を積み重ねながら、現場で専門性を発揮することが困難な環境にあり、図書館員として持続的な職業キャリアの形成や生涯にわたるキャリアを描くことが難しい。

これまでに発表者らは、図書館員のキャリア形成に関して定量的・定性的な調査を積み重ねてきた。定量的な調査としては、他機関が実施している図書館員数の基礎データをもとに、館種別（公共、学校、大学）の図書館員の男女統計を整理し、過去の女性図書館員の記事を分析したうえで、女性図書館員のキャリア形成に係る課題を明らかにした¹⁾。他方、定性的な調査として、女性図書館員のキャリアモデルの明確化と共有を視野に入れ、今を生きる女性図書館関係者を対象に、ライフコースの調査を継続して実施した²⁾。職業キャリアに留まることなく複合キャリア³⁾をも含め、その特徴や共通項、さらには力量形成の場などを明らかにした。

こうした調査から、館種をこえた図書館員のキャリア形成や館種別・雇用形態別の男女比、年齢構成などの数値が不確定であることがわかった。本研究では、複合キャリアも踏まえた図書館員の持続的なキャリア形成の考察を視野に入れ、埼玉県内の図書館を対象として、雇用形態別の図書館員の男女数、年齢構成、役職者数などを調査し、館種ごとに特徴を分析した。

2. 女性図書館員の統計

現在、図書館員の統計については、館種によ

って収集する機関が異なり、男女比が不明確な館種も存在する⁴⁾。例えば、公共図書館については、文部科学省の『社会教育調査報告書』や自治体の調査⁵⁾があり、女性の非常勤職員が9割を超えていることが明らかになっている。他方で、学校図書館については、学校司書（小・中・高）の男女比を示した近年の統計が存在せず、1980年に全国学校図書館協議会が実施した調査が残されている。大学図書館については、文部科学省による『学術情報基盤実態調査』があるが、2005年度以降、図書館員の男女比の統計が姿を消してしまう。

こうした調査以外にも、各都道府県の図書館協会などが図書館調査をしている場合もあるが、非正規職員の実数ではなく、職員換算人数（フルタイム換算）で集計される場合もある。

3. 方法

3.1 調査対象

本研究では、埼玉県内の全ての図書館を対象とした。具体的には、公共図書館（県市町村立：161館）、公立小・中学校図書館（63市町村の教育委員会）、県立高校図書館（134校）、私立高校図書館（48校）、私立小・中学校図書館（8校）、国立小・中・高校図書館（3校）、大学・短期大学図書館（国公私立：51大学）、専門図書館（15機関）の合計483機関である。

3.2 調査票の設計

調査票の設計については、先述した図書館員数の調査をはじめ、日本図書館協会の調査グループによる実態調査⁶⁾、社会教育職員の調査⁷⁾などを参考にした。このうち日本図書館協会の調査は、①男性図書館員との労働条件等の格差を視角に、学歴、配偶者、職業、年収、勤務年

*1 ISHIKAWA, Takashi：十文字学園女子大学 e-mail=takashii@jumonji-u.ac.jp

*2 AOKI, Reiko：（独）国立女性教育会館

*3 ICHIMURA, Sakurako：東京大学附属図書館

*4 KUROSAWA, Azusa：（公財）日本女性学習財団

*5 SAKURADA, Kyoko：（独）国立女性教育会館

数など、詳細な調査項目が設計され(1989年)、②大阪府下の非正規職員の実態調査では、非正規職員個々の調査(年齢、学歴、仕事の意欲等)と各館の実態調査(人数、給与、業務内容等)から構成されている(1993年)。

本調査の実施にあたり、大規模図書館の存在や、一方で少人数の図書室もあることから回答者のプライバシーにも配慮しつつ、まずは埼玉県内の図書館員数の全体像を把握することに留めた。そのため調査票には、短時間で回答できるように、雇用形態別(正規、非正規、委託派遣)の男女人数をベースとして、以下の数値に限定した調査票を設計した。

- ①兼務者数、②司書有資格者数、③役職者数、④20歳代の数、⑤50歳代以上の数

なお、数値は2015年1月1日現在とし、学校図書館においては「図書館に常駐し、図書館業務に携わる職員」とした。

予備調査として、富士見市教育委員会、新座市立中央図書館、埼玉県立新座高等学校図書館、十文字学園女子大学図書館を対象に、調査票の設計に協力いただき、用語の定義や文章表現の再設計を積み重ねた。A4判両面1枚の調査票は、2015年1月21日に各機関へ返信用封筒を同封して発送し、2月6日を必着とした。

3.3 調査票の回答

回収率は61.5%(297機関から回答)であった。なお、機関名不記載の2通は無効回答とした。他方、民間企業へ一部の業務を委託しているため、委託派遣職員数のみ無回答の調査票や、年齢欄のみ無回答の場合でも、正規、非正規、委託派遣職員の男女実数が明記されていれば、本調査の目的を考慮して、有効として集計した。

回収率は図書館を設置する団体により異なり、公共図書館(69.4%)、大学・短期大学図書館(78.4%)、公立小中学校図書館(教育委員会:41.3%)、県立高校図書館(58.2%)、私立高校図書館(54.2%)、専門図書館(73.3%)であった。このうち、教育委員会においては、自治体内多数の小中学校の学校司書を回答する手間があり、回答率が低くなったといえる。また、県立・私立高校の図書館は、学校司書1名配置の場合が多いため、年齢などのプライバシーの影響もあったと考えられる。

4. 調査結果

以下に調査結果の概要を報告する。なお、国立小中高校の図書館は図書館員の実数が少なかったことから、本稿においては各表から省略

している。

4.1 雇用形態別の図書館員数

(1) 男性の人数

男性の館種別、雇用形態別の集計結果は表1の通りである。これによると、公共、大学図書館において、非正規、委託派遣職員よりも、正規職員数が多いことがわかる。また、全体の回答数と勘案しても、県立高校、公立小中学校の学校司書について、男性の数が極めて少ないことがわかる。

表1. 男性図書館員数(人)

図書館種	正規	非正規	委託派遣	合計
公共	298	106	91	495
大学	59	15	24	98
県立高校	8	0	0	8
私立高校	5	0	0	5
小中学校	0	5	0	5
専門	7	4	0	11
小計	377	130	115	622

(2) 女性の人数

一方、女性の図書館員数は表2の通りである。非正規職員数、委託派遣職員数と正規職員数との間に大きな差があることがわかる。特に公共図書館の委託派遣、非正規職員数と、公立小中学校の非正規職員数が圧倒的に多い。

表2. 女性図書館員数(人)

図書館種	正規	非正規	委託派遣	合計
公共	359	719	938	2,016
大学	68	71	146	285
県立高校	59	12	0	71
私立高校	19	15	6	40
小中学校	15	213	21	249
専門	12	37	0	49
小計	533	1,070	1,111	2,714

雇用形態別の女性図書館員の割合が表3である。全雇用形態の図書館員全体の81.4%が女性であり、このうち非正規職員、委託派遣職員の女性割合が約90%を占めていることがわかる。

表3. 雇用形態別女性割合(%)

	正規	非正規	委託派遣	全体
女性の割合	58.6%	89.2%	90.6%	81.4%

表1、2の男女の図書館員数をさらに比較すると、男性の数値全体の中では正規職員数が最も多い。一方で、女性は非正規、委託派遣職員数が圧倒的に多く、男性の委託派遣職員の10倍近い数値である。また、県立高校の男性正規職員数、さらには公立小中学校の男性の図書館員数が極めて少ないことがわかる。

4.2 館種別・雇用形態別の女性割合

表1, 2の図書館員数とは別に, 女性の割合に焦点を当て, 館種別, 雇用形態別による女性図書館員の割合を表4に整理した。

表4. 館種別・雇用形態別の女性割合 (%)

図書館種	正規	非正規	委託派遣
公共	54.6	87.2	91.2
大学	53.5	82.6	85.9
県立高校	88.1	100	—
私立高校	79.2	100	100
小中学校	100	97.7	100
専門	63.2	90.2	—

これによると, 館種をこえて女性の非正規, 委託派遣職員の割合が高い。さらに詳しくみると, 学校図書館(公立小中学校, 私立, 県立高校)の女性の割合が高いことがわかる。特に, 公立小中学校の非正規職員について, 表1と2から218名中213名(97.7%)が女性であった。県立高校では正規職員の女性が多く, 88.1%(67名中59名)が女性であった。

4.3 役職者の傾向

本調査票における「役職者」とは, 「図書館業務に携わり, 図書館組織内(校内)の管理職」として, 「館長・課長・部長・係長級相当以上, 委託派遣職員の場合には, チーフリーダー, サブリーダー相当以上の役職にある者」とし, 「大学や学校等で教員の役職者, 自治体での名誉職, 学校の事務長は除く」とした。

女性役職者の割合を整理したものが表5である。表5は, 複数の職員が組織として活動する公共図書館と大学図書館に絞って抽出した。

表5. 女性役職者(公共・大学)

館種		正規	委託派遣
公共	女性(人)	127	151
	女割合(%)	43.6%	78.6%
大学	女性(人)	17	23
	女割合(%)	34.0%	74.2%

表5をみると, 公共図書館, 大学図書館ともに正規職員の女性役職者の割合が低く, 委託派遣職員の女性役職者の割合が高くなっていることがわかる。しかし, 表4の館種別・雇用形態別の女性割合と比較すると, 総じて女性の役職者の割合が低いことがわかる。特に, 大学図書館において, 女性正規職員の割合の53.5%に対して, 役職者である女性正規職員の割合が34.0%である。委託派遣職員も同様で, 女性の割合(公共図書館)が91.2%に対し, 女性の役職者は78.6%に留まる。このように, 実数が少ない男性図書館員(正規職員や委託派遣職員)が組織をマネジメントしている傾向がわかる。

4.4 館種別年齢の傾向

調査票では, 雇用形態別に20歳代と50歳代以上の解答欄を設定することによって, ①20歳代, ②30-40歳代, ③50歳代以上の3区分にわたる年齢を明らかにした。

(1) 男性の年齢構成

男性図書館員の雇用形態別の年齢構成を整理したものが表6である。これをみると, 30-40歳と50歳以上の正規職員数・割合が高いことがわかる。このことは, 男性の正規職員数の多さ(表1)と男性の役職者数の多さ(表5)にも関連する。また, 50歳以上の非正規職員の割合も目立つ。詳細にデータをみると, 公共図書館の50歳代以上の男性の非正規職員が67名であったことから, 男性の再雇用職員やシルバー人材の雇用が多いと推測できる。一方で, 男性の委託派遣職員は少ないため, 男性の委託派遣職員全体人数のうち役職者の比率が高いといえる。また, 20歳代の男性正規職員が非常に少ない。

表6. 男性の年齢構成(人)

雇用形態	20歳代	30-40歳	50歳以上
正規	29	166	172
%	7.9%	45.2%	46.9%
非正規	21	30	79
%	16.2%	23.1%	60.8%
委託派遣	34	46	29
%	31.2%	42.2%	26.6%
合計	84	242	280
%	13.9%	39.9%	46.2%

(2) 女性の年齢構成

男性と同様に, 女性図書館員の雇用形態別の年齢構成が表7である。

表7. 女性の年齢構成(人)

雇用形態	20歳代	30-40歳	50歳以上
正規	61	282	180
%	11.7%	53.9%	34.4%
非正規	78	500	484
%	7.3%	47.1%	45.6%
委託派遣	177	567	321
%	16.6%	53.2%	30.1%
合計	316	1,349	985
%	11.9%	50.9%	37.2%

これによると, 全ての雇用形態において, 30-40歳代の女性図書館員の人数・割合が高く, 約50%を占めている。次いで, 50歳以上の割合が約30-45%, そして20歳代が最も低い。しかし, 男性の年齢構成(表6)と比較すると, 例えば以下の点がわかる。

- ・30歳以上の男性正規職員数（166人，172人）を除くと，雇用形態や年齢を問わず，総じて男性の図書館員の実数が少ない。
- ・20歳代の女性図書館員数（316人）は，男性の全ての年齢区分の実数よりも多い。
- ・30 - 40歳代の男女の図書館員数を比較すると，約5.5倍もの差がある。

このように雇用形態別の男女の年齢構成（実数，割合）から，大きな違いがあることがわかる。さらに詳しく，館種別に雇用形態別の年齢構成をみると，公共図書館と大学図書館は表6と表7に近い傾向を示した。しかし，学校図書館においては，他館種と異なり大きな特徴がみられた。

(3) 県立高校図書館の年齢構成

表8は，県立高校図書館における女性図書館員の数値を抽出したものである。これによると，50歳以上の正規職員が圧倒的に多く，20歳代が極めて少数であることがわかる。50歳代以上の女性図書館員の割合が62.3%を占めていることは，公共図書館や大学図書館の状況と大きく異なっている。

表8. 女性の年齢構成：県立高校（人）

雇用形態	20歳代	30-40歳	50歳以上
正規	2	17	39
非正規	1	6	4
委託派遣	0	0	0
合計	3	23	43
%	4.3%	33.3%	62.3%

この背景には，これまでに埼玉県内の各高校の図書館には，専任・正規の学校司書が配置されてきた。しかし，2000年から2012年までの間，司書職の採用試験が行われず，欠員は非正規職員により補充された経緯がある。

(4) 公立小中学校図書館の年齢構成

表9は，公立小中学校図書館における女性図書館員数の数値を抽出したものである。

表9. 女性の年齢構成：公立小中学校（人）

雇用形態	20歳代	30-40歳	50歳以上
正規	0	11	4
非正規	4	108	101
委託派遣	3	16	2
合計	7	135	107
%	2.8%	54.2%	43.0%

これによると，年齢構成の比率は表7に近い傾向を示しているが，職員数をみると，20歳代の図書館員が極めて少なく，他方で30歳以上の非正規職員数が目立つ。男性の非正規職員数が5名であることから，偏った数値であるこ

とがわかる。

5. 司書有資格者の傾向

司書有資格者については，男性よりも女性の正規職員の有資格者率が高い傾向にあった。特に，公共図書館（男性：43.0%，女性：65.5%）と大学図書館（男性：52.5%，女性：83.8%）の男女差が目立つ。また，埼玉県の司書職制度を背景として，県立高校における正規職員の有資格者率は極めて高かった。

6. おわりに

本研究では，複合キャリアも踏まえた図書館員の持続的なキャリア形成の考察を視野に，まずは図書館員の数値を明らかにした。総じて女性図書館員数が多い結果となったが，館種別，雇用形態別に男女比や年齢構成など，異なる特徴がみられた。よって，図書館員個々の持続的な職業キャリア形成と生涯にわたるキャリアの視点のみならず，図書館の組織内や司書集団としての力量形成の場の考察にもつなげていきたい。

■注・参考文献

- 1) 石川敬史ほか「女性図書館・情報担当者のキャリア形成に関する予備的考察」『日本教育情報学会年會論文集』29, 2013.11, p.300-301.
 - 2) 石川敬史ほか「女性図書館員・情報担当者のライフコースとキャリア形成」『日本教育情報学会年會論文集』30, 2014.8, p.56-57.
 - 3) 神田道子「複合キャリアとは何か」『NWEC実践研究』2, 2012.2, p.4-16.
 - 4) 前掲1)の研究成果の一部である。
 - 5) 全日本自治団体労働組合自治研作業委員会編『臨時・非常勤等職員の実態調査』報告』2009.5, 85p.; 全日本自治団体労働組合編『自治体臨時・非常勤等職員賃金・労働条件制度調査結果報告（ダイジェスト版）』2012.12, 15p.; 上林陽治『非正規公務員という問題：問われる公共サービスのあり方』岩波書店, 2013.5, 63p.
 - 6) 日本図書館協会図書館員の問題調査研究委員会，FLINT図書館職調査研究グループ編『日本図書館協会個人会員実態調査報告』日本図書館協会，1989.10.; 日本図書館協会図書館員の問題調査委員会非正規職員実態調査ワーキンググループ編『図書館で働く非正規職員：大阪府下公立図書館調査報告』日本図書館協会，1993.11.
 - 7) 佐藤三三「女性社会教育職員の存在携帯：女性問題の視点から」『弘前大学教育学部紀要』76, 1996.10, p.113-126.
- * 本調査にご協力いただいた埼玉県内図書館関係者の皆様に感謝申し上げます。なお，本研究は2014年度（公財）日本科学協会佐川科学研究助成「女性図書館員が生涯にわたりエンパワーメントするキャリア形成に関する実証的研究」（研究代表者：石川敬史）の成果の一部である。